

## 上川郡中央医師会

### 定期総会開催

上川郡中央医師会  
北海道医報通信員 水野清司

上川郡中央医師会は、春たけなわの4月16日に第58回の定期総会を開催した。

会場には久しぶりに会員各位の元気な姿に接し会談。

定刻開催、委任状も含めて23名が出席して盛大に開催された。

椎名会長から昨今の医療を巡る厳しい環境の中で今後も会員とともに地域医療の再生に向けて会務を遂行していきたいと挨拶があった。

引続き議案審議に入り、平成19年度の事業報告ならびに収支決算、平成20年度の事業計画および収支予算案など議案第4号までを滞りなく活発に検討、了承を得て可決承認された。

今年は医師会役員の任期満了による改選期であったが、一部異動に伴う役員の補充人事を行ない、他は留任となり、道医師会関係の会務分担委員も一部を変更して医師会活動の充実を図ることになった。

事業計画では日本医師会生涯教育の一環として行なう学術講演会の開催や救急医療体制の強化の一環として救急医療部会の加藤委員、木下委員から医師会会員の救急処置、救命治療の研修会や救急医療器具の設置について提言があった。

総会終了後の懇親会は藤本副会長の乾杯で始まり、多数の会員が参加されたこともあって和気あいあいに親睦を深め話し合いながら、木下副会長の締めで無事閉会した。

任期満了により改選再任された役員氏名は次のとおりである。

会 長	椎名 弘忠		
副会長	藤本 達哉	木下 透	
理 事	浅井 基典	館花 明佳	
	藤原 正文	加藤 一哉	
	村住 和彦	斉藤 英明	
	相馬 光宏	吉田 泉	
監 事	水野 清司	小池 台介	

## 寿 都 医 師 会

### 医療町民フォーラムの開催について

寿都医師会長 秀毛寛己

‘もし、黒松内に病院が無くなったら’をテーマとした町民フォーラムが4月19日(土)黒松内町民センターにて開催された。主催は、黒松内の医療を考える会(代表:茂尾公晴レインボー歯科クリニック院長 後援:黒松内町)。町内在住の有志による医療問題研究会を今年1月より立ち上げ、ボランティアの実行委員会を組織し、約10回開催し当日に何とか滑り込んだ。昨年10月および12月の北海道新聞に黒松内町国保病院の記事が取り上げられたことを契機に町民の間に医療機関の存続についての近い将来への危機感や救急体制への不安が改めて顕在化し、町行政側主導ではなく、自発的な町民サイドよりの自主開催となったことは、まず評価に値する。当寿都医師会の事務局を置く病院の存続を巡る問題についてのフォーラムであり当病院ナース2名と事務職員2名も実行委員や事務局として参加した。フォーラムは、当町以外の参加も多く約160余名の参加者を数え、土曜日の午後の晴天ならびに参加への個別要請



を一切しなかったことなどを考えると関心の高さを物語っていると思われた。なお、清水美智夫北海道厚生局長のご一行と北海道医師会より宮本慎一副会長、中村雅則次長、武藤雅弘次長に遠路ご来町いただき盛会となった。

フォーラムは午後2時より4時半までの2時間半で三部構成。第一部でパワーポイントを使い現状の医療機能や実態を分かりやすく説明。二部ではコミカルな読み合わせ寸劇で地域の医療をめぐる諸問題をとりあげ、第三部はトーク形式で前沢政次北大教授と高橋雅俊倶知安厚生病院長をゲストコメンテーターに迎えて町民代表2名の斉藤和博黒松内協働作り推進委員長、高木晴光ぶなの森自然学校長、計4名で司会の茂尾委員長とのやりとりが行なわれた。

実行委員会では、当初よりこの地域医療フォーラムを継続して行なうことを計画し、第一回目の今回

は、町民自らが病院の存続などに意見や危機意識を持つための導入部と考え、結論を誘導せずさまざまな問題の偏らない提示と情報公開をまず心がけた。最後に参加者にアンケート調査を行なった。ざっと集計したところ大方の評価はまずまずだがとくに第三部に物足りなさを感じている意見が多かった。黒松内という地域の特殊性（陸の孤島：車で1時間以内にほかの病院が無く札幌・函館に均等に遠い）から地域での初療体制の重要性は考慮しつつ、科目によって異なる八雲・倶知安の2つの2次医療圏とどのように連携するか（広域連携・集約化）、さらに総務省、道のガイドラインとどう組み合わせるか（診療所化の是非）、住民のできることはなにか（住民と医療機関との関わり）といった各論は次回以後のテーマとして続く予定。

医療従事者の視点からみた感想としては、医療機関形態と医療機能の関連性の説明や評価が今回のフォーラムでは曖昧であったことで、住民に診療所と病院の違いを分かりやすいものに表現できなかったことがまず一点。地域の医療問題を満遍なく論じたため焦点がやや不明になったことと、浅い理解のまま数字や資料を解釈されたのではという危惧が残ることが第二点。斬新な手法であるが、前座の第一部、二部に表現の冗長さがやや目立ち、第三部が主題に深く触れられずに時間切れであっさり終了した

感が否めない。さらに討論性の無いトークショー的に設えたことが反って聴衆に中途半端な印象を与えたようである。フォーラム内容がテーマに近づいてないと主催者に苦言を呈する勇氣ある？フロア発言が一件あり場が盛り上がる場面があった。フロアを巻き込む積極的な熱い討議を今後も期待する。会場の音響効果が今ひとつということもあって不完全燃焼感がやや残るが、町民主導、主催の問題意識の点火目的の第一回目としてはまず好発進というところか。初めての試みを時間の無い中で実現した茂尾委員長ほか医療を考える会フォーラム実行委員会のメンバーの努力と熱意に敬意を表しつつ今後の発展に注目したい。



## お知らせ

### 北海道ナースセンター事業について

#### ◇医療関連事業部◇

近年、看護師の不足が問題となっていることから、その対策のひとつとして北海道看護協会では、北海道から委託を受けて「ナースセンター事業」を実施し、看護職の求人・求職をサポートしております。

看護職の確保・定着の推進は重要な課題ではありますが、結婚・出産・育児などで退職する方々が多数おります。

その方々が復職したいと思っても、最近の医療・看護技術の変化はめまぐるしく新しい知識を学ぶ必要があり、また退職前の勤務経験も多様なため即戦力として働けるとは限りません。

未就業期間はさまざまですが、復帰に関していろいろな不安を持っている人が多いのが現状であります。このような方々のためにナースセンターでは「看護職の求人・求職合同面接会」「再就業のための体験研修」等の事業を実施しています。

北海道医師会では、北海道ナースセンターが行うこれらの事業を全面的に支援し、看護師の確保・定着を推進するため、本号付録において周知することといたしましたので、本事業の趣旨をご理解の上ご協力いただきたくご案内申し上げます。

なお、本事業に関しましては、北海道看護協会ホームページ、看護協会ニュースにおいても案内されております。